

多様な目的で在留する外国人に 対応した日本語教育の展開



倶知安町の概要

アクセス

倶知安町の概要

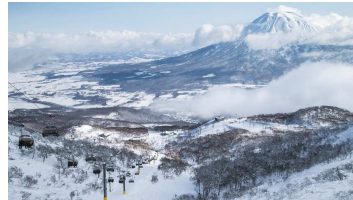
主要産業① ★農業

豊かな自然環境を活かして
じゃがいも・お米・麦・豆・野菜・
ビートなど多様な農産物を生産



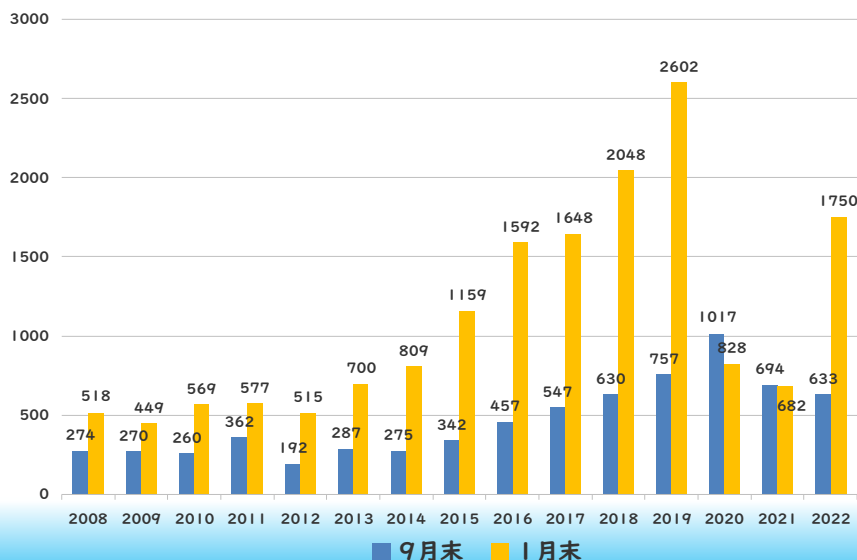
主要産業② ★観光業

ニセコエリアという国際的なスキーリゾートを有し、
国内外から多くの観光客を迎え入れる



3

外国人や地域の状況 (外国籍住民数の推移・国籍・在留資格)



外国籍住民数 871人

国籍 (約50カ国・地域)

- ①オーストラリア(130人)
- ②中国(98人)
- ③台湾(76人)

在留資格

- ①技術・人文・国際(328人)
- ②永住者(108人)
- ③特定活動(88人)

冬季は特定活動が
1,000人超に!

(2023.9月末時点)

4

取り組みを始める以前の状況・課題

文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用(2021年度～)

課題① 外国人が地域と関わる機会が **増** 住民の不満も **増**

当初 ～ 少し離れた場所にあるスキーリゾートから買い物などにくる程度

増加後 ～ スキーリゾートだけでは住む場所が足りず、市街地で生活する外国籍住民が増加

スキー場で雇用される冬季間のみ居住
(特定活動(ワーキングホリデー等))
春になると多くが帰国・道外へ



地域住民の不満に・・・

ごみ・除雪・騒音等の文化や生活習慣の違いなどからくる課題が発生

課題② 外国籍住民の日本語学習のニーズ **有** 町内に日本語教室 **無**

2019年実施のアンケートで回答者の約8割が「学習したい」「機会があれば学習したい」と回答するも、町内には外国人が日本語を学べる場所がない

5

現在の事業内容

にほんご×(こ)うりゅう×くっちゃん = 「にこちゃん」
(2022.10～)

★年間計4ターム(春夏秋冬)

1ターム 10～14回(約2カ月間)

水曜日 14時～15時30分

木曜日 18時～19時30分

★1回のサロン

学習タイム(50分)

交流タイム(30分)

振り返りシートの記入(10分)

★場所：倶知安町公民館

にほんごサロン
にこちゃん
Nico-Chan



6

現在の事業内容



★「にこちゃん」主催イベント

ポットラックパーティー
ミニ運動会
風土館・美術館見学会 など

★「にこちゃん」共催イベント

多文化料理教室
防災・避難所体験プログラム
消防119番の日
町民英語研修参加者との交流会
駅前通りのごみ拾い
出張にこちゃん など

防災・避難所体験→
プログラム



←ポットラック
パーティー



町民英語研修参加者→
との交流会

現在の事業実施体制図



事務局（町総合政策課）

企画・運営全般を担う

2年目～

日本語教育コーディネーター

地域おこし協力隊制度を活用
コーディネーターを迎える

にこちゃんサポーター

企画・運営のサポート

（学習タイムのテーマ決め
・交流タイムの司会・運営）

助言

アドバイザー

運営等に関する指導・助言

連携・協力

後志総合振興局（北海道）

他地域との連携・協力の橋渡し役

町内の関係団体（観光協会・商工会議所・
町内会連合会・ホテルや宿泊施設の管理会
社等）

周知活動等への協力

町教育委員会

運営のサポート（会場の予約・管理）



これまでの歩み(3年間の歩み)

1年目

★日本語学習支援者（サポーター）養成講座を実施

ノウハウや知識がない中で日本語教室をはじめるために養成講座を実施

※講師はアドバイザーに依頼

★日本語教室のプレ教室を実施（1年目は計4回）

2年目

★「にこちゃん」の開催（10月からの半年間で計24回）

★サポーターブラッシュアップ講座を初実施

学習支援者養成講座に加え、既存サポーターのレベルアップのための講座を実施

★出張にこちゃん初実施

3年目

★「にこちゃん」の開催（イベントも含めると10月までの半年間で計40回以上）

9



これまでの歩み(ニーズをどう形に)

ニーズの把握方法

★立ち上げ段階

多文化共生まちづくりアンケート（2019）、

外国籍従業員を雇用する事業者とその従業員へのアンケート（2021※1年目）

★立ち上げ後

振り返りシート（2022～）、事業所へのヒアリング（2023）、

多文化共生まちづくりアンケート（2023）

交流型の日本語教室（「にこちゃん」）の開催に

★外国人の多くが「日本語を学習したい」

約8割が「学習したい」と回答

★外国人は「日本人と交流したい」、日本人も「外国人と交流したい」

「町へ期待すること」で多かった回答が「交流会やイベントの開催・充実」

（多文化共生まちづくりアンケートより）

10

これまでの歩み(ニーズをどう形に)

学習者の希望(書道)や、サポーターの得意(歌や琴)が形に

★「振り返りシート」で参加者の希望を聞き取り

参加者(学習者・サポーター)から毎回感想や意見をもらい、企画や運営の参考に

「出張にこちゃん」で参加しやすく

★「参加したい」けれど移動手段がない

★「時間帯がなかなか合わない」

観光業(スキー場や宿泊施設)などはシフト制で決まった休みがない

冬季間のみ滞在するなど、短期的な滞在者も多く、移動手段を持っていない



多様化・多国籍化する外国籍住民のニーズに合わせ

外国人の多いスキーリゾート周辺のエリアに「にこちゃん」のほうから出張

これまでの歩み(ニーズをどう形に)

「出張にこちゃん」

★後志総合振興局(北海道)と連携し、会場予約や事業者への周知を実施

(開催日時や開催場所は事業者からのニーズに応じて柔軟に対応)

★いつも参加しているメンバーに加え、スキー場周辺で暮らす新たな学習者が参加

★普段と違う宿泊施設のロビースペースで実施したことや、新たな参加者が入ることによっていつも参加する人たちにとっても新たな刺激に

★町中だと送迎が難しかった事業者にとっても、会場が近くなったことで送迎が可能に





これまでの歩み(成果・今後の課題)

課題①～安定した運営のための体制づくり～

市町村が主催する日本語教室の共通課題

・担当者の変更

日本語教育コーディネーター（地域おこし協力隊）の任期が来年度で終了

・予算の確保

地域日本語教育スタートアッププログラムが3年目のため、今年度で終了

次年度に向けては、町独自で実施するための予算を要求中

「にこちゃん」にとっても今後の大きな課題です…

「サポーター・学習者と一緒に作る教室」として活動を続けていきたいと考えており、そのために「市町村は何ができるのか」、これがこれから活動が続けるうえでの最大のテーマです。

今年度からは「サポーター企画で交流タイム」「テーマを決めない『フリーにこちゃん』」など、サポーターや学習者の自主性を尊重した新たな試みも始めています。 13



これまでの歩み(成果・今後の課題)

課題②～参加者の確保～

外国人が多く生活する倶知安町ですが、「にこちゃん」を年間50回以上開催しており、毎回の参加者をどう確保するのも大きな課題の一つです。参加者確保のために、さまざまな工夫をして参加者の確保に努めています。

- ・毎タームごとにスケジュールを載せたチラシを作成し、スーパーなどの外国人が立ち寄りそうな場所にチラシを設置（サポーターや学習者にも知り合いに配るなどしてもらっている）

※今年実施した多文化共生まちづくりアンケート（外国籍住民全員に送付）にもチラシを入れたところ絶大な効果が！

- ・開催曜日の変更（春タームで昼回の参加者が少なかったことから月→水に変更）
- ・外国籍従業員を雇用する事業者へ出向き、従業員への周知を依頼



これまでの歩み(成果・今後の課題)

成果～外国人と日本人の交流の拠点に～

「にこちゃん」がスタートしてからまだ1年しか経過していないため、まだまだ試行錯誤の毎日ですが、毎回少しのアップデートをしながら、ようやく形になってきたと実感しています。

最近「『にこちゃん』と一緒に●●がしたい」といった、うれしい言葉をもらえることも多くなり、少しずつではありますが、「にこちゃん」の存在が地域の皆さんにも認識されていると感じることができています。

参加者からも毎回「楽しかった!」「また来たい!」との声をもらえており、この「にこちゃん」が「外国人と日本人の交流の拠点」として、また「外国人・日本人の双方の『居場所』」としてあり続けられるように、これからも活動を続けていきたいと思ひます。

15



ご清聴ありがとうございました



町イメージキャラクター
「じゃが太くん」

16